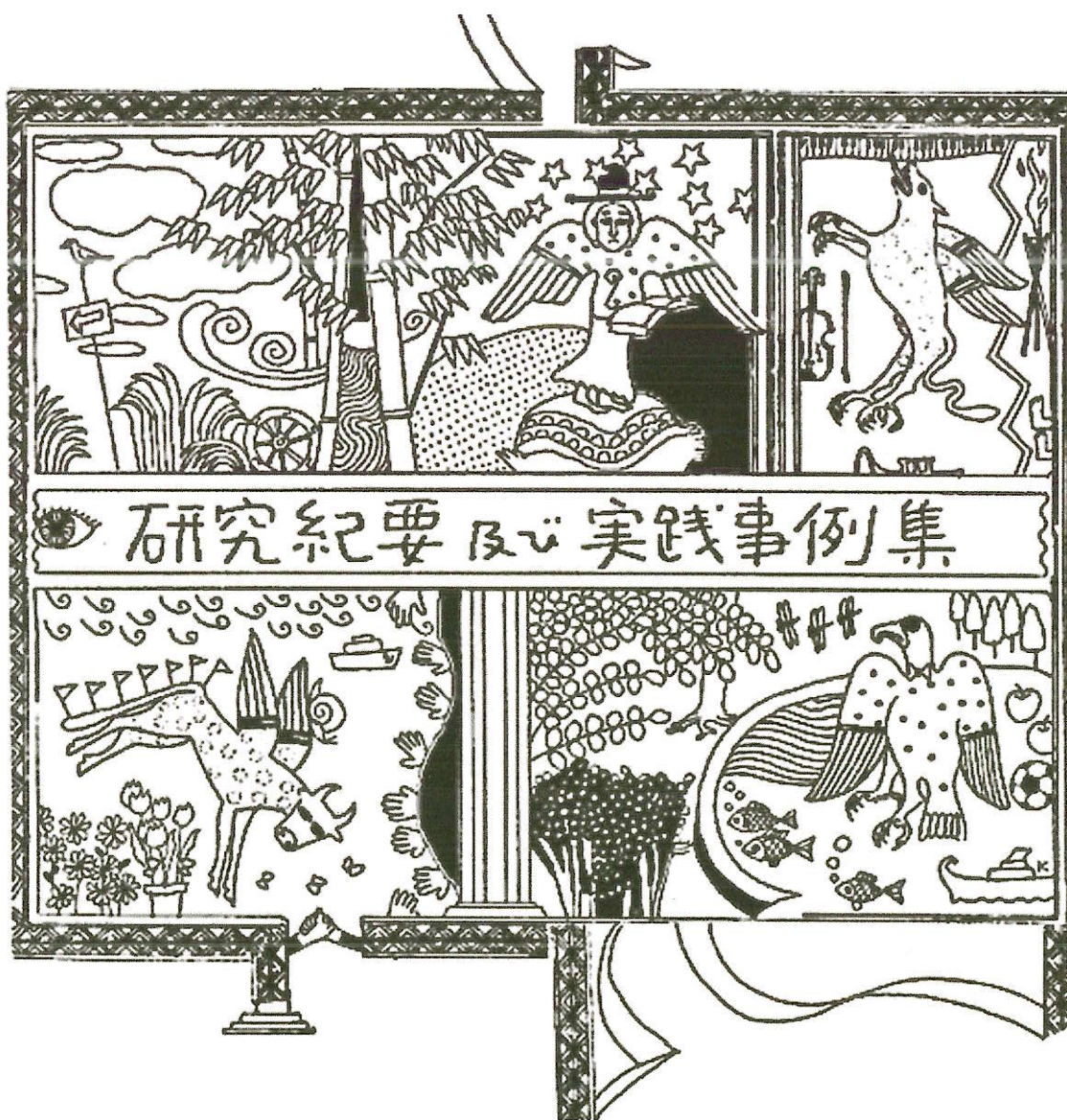


令和 6 年度



京都府中学校 道 徳 研究部会

「研究紀要及び実践事例集」

【目次】

p.1	あいさつ
p.2	役員名簿
p.3	活動報告及び成果と課題
p.4-7	道徳研究部会だより
p.8-20	各地域の活動まとめ
p. 21-41	各地域の学習指導案

あ い さ つ

令和6年度京都府中学校教育研究会道德研究部「研究紀要及び実践事例集」の発刊に際し、一言ごあいさつとお礼を申し上げます。

中学校では平成31年4月に、道德が特別の教科として全面実施となり、「考え、議論する道德」として質的転換が求められています。道德科の全面実施から6年目を迎えた今年度は、「主体的に深く考える道德科の創造～語り合い学び合う授業を目指して～」の研究主題の下、昨年度、舞鶴市立和田中学校で開催した京都府中学校教育研究会道德教育研究大会での研究成果を継承、発展し、授業の中で子どもたちが「よりよく生きるための基盤となる道德性を養う」ことを目標に研究を進めて参りました。具体的には、各地域の研究の交流と協議、近畿大会・全国大会等への参加及び研修報告の共有、道德の「授業づくりシート」に関する研修等の調査研究と、本冊子「研究紀要及び実践事例集」、「道德研究部会だより」の発行等の広報活動の2本柱で取り組みました。特に、今年度は、本冊子にすべての地域から代表の指導案等を追加し、内容の充実を図りました。

時代が変わっても、普遍的な価値を追い求める姿勢は変わりません。目まぐるしく変化する先の見通せないVUCAの時代にあって、子どもたちが自分自身の弱さや強さ、気高さと向き合い、適切に人と関わり、よりよく生きることや美しいもの・崇高なものを探究する上で、「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育とその要となる道德科の授業」が果たす役割はとて大きいと思います。よりよく生きるために子どもたちが道德的価値を自覚する指導を通して子どもたちに道德性を養うための研鑽や、将来自立した社会人として幸せに暮らせるよう教科・領域全般への実践に励まれる各地域の先生方とともに、引き続き、主体的に考えを深める道德科の授業の工夫、改善等、幅広く研究を推進して参ります。

本研究会の研究推進に当たり、京都府教育委員会、京都府総合教育センターをはじめ、多くの皆様に多大なるご支援、ご指導、ご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

令和7年3月

京都府中学校教育研究会
道德研究部会長 公文代 哲夫（久御山町立久御山中学校長）

京都府中学校教育研究会

令和6年度 道德研究部会 役員名簿

	氏 名	学 校	TEL/FAX
部 会 長	公文代 哲夫	久御山町立久御山中学校(城久)	075-631-7207/7246
副部会長	小林 園	宇治市立黄檗中学校(宇治)	0774-39-9143/9146
事務局員	松本 岳史	久御山町立久御山中学校(城久)	075-631-7207/7246

顧問・地域部長 (専門研究員)

地 域	校数	顧問氏名	学校名	電話番号	地域部長氏名	学校名	電話番号
相 楽	10	高橋 敬子	山城	0774-86-2001	有田 篤生	精華西	0774-95-3700
綴 喜	9	中井 達	田辺	0774-62-0021	日下 さくら	男山第二	075-981-0191
城 久	6	公文代 哲夫	久御山	075-631-7207	松本 岳史	久御山	075-631-7207
宇 治	10	小林 園	黄檗	0774-39-9143	佐飛 泰成	宇治	0774-39-9158
乙 訓	9	竹ヶ鼻 宏治	長岡第二	075-954-5330	佐飛 紀子	勝山	075-921-1106
亀 岡	8	中司 和男	亀岡	0771-22-0165	光枝 良祐	詳徳	0771-23-9393
南 船	9	磯川 卓史	殿田	0771-72-0031	濱崎 早智	八木	0771-42-2009
綾 部	6	中垣 真由美	東綾	0773-46-0033	船越 美里	綾部	0773-42-0292
福知山	10	笹木 大照	桃映	0773-22-3220	福田 朋子	川口	0773-33-2019
舞 鶴	7	井上 泰正	城北	0773-75-0158	水上 恒次郎	青葉	0773-62-4612
与 謝	6	西村 和也	宮津	0772-22-4305	秦 真悟	栗田	0772-25-0023
京丹後	6	田辺 健二	大宮	0772-64-2201	山田 友希	峰山	0772-62-0359

京都府教育庁指導部学校教育課 担当 指 導 主 事 小久保 美紀子

京都府総合教育センター 担当 研究主事兼指導主事 岩崎 佳子

令和6年度 京都府中学校教育研究会道徳研究部 報告

1 研究主題

主体的に深く考える道徳科の創造 ～語り合い学び合う授業を目指して～

2 研究活動の概要

(1) 事務局会議及び地域部長会

期 日	事務局会議	地域部長会	場 所
7月1日	第1回会議	第1回会議	丹波自然運動公園（トレーニングセンター研修室）
12月2日	第2回会議	第2回会議	亀岡市交流会館
1月17日	第3回会議	第3回会議	丹波自然運動公園（トレーニングセンター研修室）

※「広報」と「調査研究」の2本柱による研究推進

ア 広 報 令和6年度「研究紀要及び実践事例集」の発行

「道徳研究部会だより」の発行

イ 調査研究 各地域の研究の交流及び協議

近畿大会、全国大会等への参加及び研修報告の共有

道徳「授業づくりシート」に関する研修

3 研究組織

【事務局】 部会長 公文代 哲夫（久御山） 副部会長 小林 園（黄檗）

庶務・会計 松本 岳史（久御山）

【地域部長・専門研究員】 有田 篤生（精華西） 日下 さくら（男山二）

佐飛 泰成（宇治） 佐飛 紀子（勝山） 光枝 良祐（詳徳）

濱崎 早智（八木） 船越 美里（綾部） 福田 朋子（川口）

水上 恒次郎（青葉） 秦 真悟（栗田） 山田 友希（峰山）

【指導助言】 京都府教育庁指導部学校教育課 指導主事 小久保 美紀子

京都府総合教育センター 研究主事兼指導主事 岩崎 佳子

4 成果と課題

(1) 成果

ア 研究活動を通じて、各地域とのつながりを深め、府教育委員会・府総合教育センターの指導の下、継続的・組織的な活動を実施できた。

イ 各地域での研究をまとめた「研究紀要及び実践事例集」を発行し、府内各地の実践から学ぶことができた。今年度は、各地域から代表の指導案等を追加し、内容の充実を図った。

ウ 近畿大会や全国大会等へも参加し、その研修報告を共有することで、学びを広げることができた。

(2) 課題

ア 道徳の「質的転換」を推進するリーダーの育成及び各校・地域の実態に合わせたよりよい実践的な研究を更に深める。

イ 主体的に考えを深める道徳科の授業の工夫、改善等、幅広く研究を進める。

ウ 地域部長会での研修の更なる充実を図り、その学びを各地域に発信していく。

京都府中学校教育研究会

令和6年度 道徳研究部だより



事務局 久御山町立久御山中学校

TEL:075-631-7207 FAX:075-631-7246

令和6年度事務局・専門研究員合同会議 および地域部長会での内容報告

京都府中学校教育研究会道徳研究部会の事務局・専門研究員合同会議及び地域部長会が開催されました。今年度の事業概要と来年度の研究テーマについてお知らせします。

— 令和6年度 研究テーマ —

主体的に深く考える道徳科の創造

～ 語り合い学び合う授業を目指して ～

～事業概要～

◇府中研道徳研究部では「広報部」「調査研究部」の2本柱で事業を進めています。

内容	広報	調査研究
活動	◎「道徳研究部会だより」の発行 ◎研究紀要及び実践事例集の発行	◎令和7年度京都府中学校道徳教育研究大会の発表に向けて ◎来年度に実施予定のアンケートの内容検討と作成事業を実施 ◎近畿大会・全国大会への参加及び研修報告の共有 ◎府内各地域中教研による実施 ◎各地域における実践事例の交流 ※12ブロックの各中学校で実施 ※「道徳教育の進め方 京都式ハンドブック」の活用も踏まえて
	◎事務局・専門研究員合同会議・地域部長会 ※7月・10月・1月 年3回開催 ※ 道徳科の授業研究、ICTの活用交流、道徳科の授業実践交流 ◎「第30回近畿中学校道徳研究大会 和歌山大会」への参加 ※11月実施 ◎「第58回全日本中学校道徳教育研究会 神奈川大会」への参加 ※11月実施	

1. 公開授業・事後研究会の方法について(京都府内の中学校の実践より)

公開授業・事後研究会を行う中で、和やかな雰囲気できくばらんに自分の考えや意見を話し、交流できるように学習指導部が発案し、実行しています。働き方改革を進めていく中で、授業実践の交流を深めていくこともしようと色々と模索し、実行している段階です。その中で、今年度は、指導案検討・授業実践・事後研究会の流れの中から、指導案検討・事後研究会をせず、ロイロノートを活用し、先生のための、先生による授業参観日をつくり、実施してみました。

内容は、以下の通りです。

①道徳の授業を、各学年時間をずらして行います。教務主任と連携してずらしてもらいました。

今回は、1 時間目…1 年生「カメは自分を知っていた」を全クラス担任が実施しました。

2 時間目…2 年生「泣いた赤鬼」「夢の力」「人って本当は?」「嫌われるのを恐れる気持ち」「アイヌの歌を歌いたい」を各クラス担任が実施

3 時間目…3 年生「巣立ちの歌が聞こえる」を全クラス担任が実施しました。

②授業のあいている時間に、授業参観をしてもらいます(授業の一部分でも大丈夫です。色々な授業を見に行っても大丈夫です。

③右のようなカードをロイロノートで記入してもらい、提出箱に入れてもらいます。

④提出箱は、どの先生でも見る事ができるようにしておきます。共有ができる状態にしておく。

(次年度、活用できるものになる。)

行間はもっと空いています。→

参観したクラス	年	組
授業者 (	)	
授業の教材・題材 (	)	
どんな授業だったか?	授業で工夫されていたポイント	
マネしてみたいポイント	授業者の先生に一言	
お名前 ()		

2. 第 30 回近畿中学校道徳教育研究大会が和歌山県紀の川市立粉河中学校で開催されました。

和歌山県大会では、前年度生徒を対象に行ったアンケートの結果から見えた課題をふまえ、「いろいろな人の生き方や考え方に触れる道徳教育の充実 ～多面的・多角的にとらえ、自らの生き方を探し、学んでいく力を育てる～」という研究テーマを設定し、道徳科の授業実践を重ねておられました。

先生も生徒も一緒に考えるための工夫として、「場面再現」「ホワイトボードとマグネットの活用」「TT の活用」「道徳通信の発行」が行われていました。また、範読や内容理解に時間をかけず、50 分間を話し合いや考えに時間を費やせるよう、教員同士が校内で、教材について日常的に対話をしながら、教材について理解を深めているそうです。

※詳しい内容は、以下の内容をご覧ください。

令和6年度 第30回近畿中学校道德教育研究大会 和歌山大会 報告

大会主題

「いろいろな人の生き方や考え方に触れる道德教育の充実」
～多面的・多角的にとらえ、自ら生き方を探し、学んでいく力を育てる～

日 程 令和6年11月1日（金）

受 付	分科会	休 憩 移 動	公 開 授 業	昼 食 休 憩	全 体 会			
					開会行事	研究報告 指導講評	記念講演	閉会行事

公開授業 紀の川市立粉河中学校

学 年	主 題 名	内 容 項 目	教 材 名	授 業 者
1 年	心の弱さを乗り越えるために (会場：1年2組)	D-(22) よりよく生きる喜び	銀色のシャープペンシル	伊 藤 佑 夏 宮 村 悠
2 年	垣根をこえて (会場：2年3組)	C-(18) 国際理解、国際貢献	六千人の命のビザ	渡 邊 謙 次 郎 阪 井 洋 介
3 年	自然の偉大さ (会場：3年1組)	D-(21) 感動、畏敬の念	生き続ける「大岩杉」	仲 井 義 人 中 筋 圭 司

「主体的・対話的で『深い』学びを目指して～『動き』のある道德科授業実践～」の講演を拝聴して

1. 道德科の目標と授業

道德科の目標では、『よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる』とある。そこで、その目標を達成すべく、道德科の授業に求められているものは、主体的・対話的で深い学びが必要である。これを行っていくために、『「動き」のある道德授業の実践』をされてきた。

2. 道德科「動き」のある授業

(1) 道德科授業づくりの課題

道德科授業づくりの課題として、次の3点が求められている。

- ①生徒たちをアクティブラーナー(=主体的な学習者)に育てること。
- ②教師から生徒への「一対一」問答→生徒たち同士の「対話」を大切に授業展開
- ③生徒たちを授業の担い手(=主体的な学習者)として、育てること。

また、道德教育の目的として、生徒の『自己指導能力(自己評価力)』を育成していくために、「動き」のある授業を構想し、実践をされてきた。

(2)「動き」のある授業の授業過程

①「動き」のある授業の定義…『「心」が動いて、自己を見つめられる授業』

②どの場面で「動き」を作っていくのか→Ⅰ.場面再現時の「動き」

Ⅱ.ホワイトボードと磁石を活用した対話・交流の「動き」

Ⅰ.場面再現時の「動き」とは…**教材上の設定に沿って、**

「拍手などの音」、「登場人物のセリフ」、「表情や行動」などを再現する。

場面再現時の「動き」の有効性…○教師が実践しやすい。

○生徒にとって、教材内容の理解が容易になり、自分ごととして、考えやすくなる。

そのため、特に言語活動を苦手とする児童・生徒にも考えやすい学習環境が整う。

○特別な支援を要する生徒にも、活躍の場を保障しやすくなる。

Ⅱ.ホワイトボードとマグネットを活用した対話・交流の「動き」とは…**多面的・多角的に考える「動き」**

ホワイトボードを活用することで、生徒一人一人の考えを視覚化し、全体で共有することができる。

色の違うマグネットを使用することで、生徒の意見に対して、「共感した意見」や「詳しく聞きたい、質問したい意見」を表現し、全員で確認をすることもできる。

※ただし、ホワイトボードによる「対話」のデメリットもある→「対話」までに時間がかかりすぎてしまう。

※ 近畿大会での学びを、今後の多様な道德科授業の実践に役立てていきたい。

各地域のまとめ

- (1) 相楽地域
- (2) 綴喜地域
- (3) 城陽・久御山地域
- (4) 宇治地域
- (5) 乙訓地域
- (6) 亀岡地域
- (7) 南丹・船井地域
- (8) 綾部地域
- (9) 福知山地域
- (10) 舞鶴地域
- (11) 与謝地域
- (12) 京丹後地域

令和6年度 相楽地域 活動のまとめ

研究部	相楽地域中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	山城中学校	校長	高橋 敬子
			部長	精華西中学校	教諭	有田 篤生
月	日	場 所	活 動 内 容			
6	19	山城中学校	・事業計画の決定 ・各校の取組交流			
8	5	山城中学校	・府中研報告 ・研究授業の指導案検討			
10	28	精華西中学校	・府中研報告 ・研究授業・研究協議(精華西中学校第2学年2組) ・研究部のまとめ、来年度に向けて			

1 本年度の研究主題

よりよく生きる力を育む道徳教育
～ともに語り合い、ともに考える『道徳科』の授業の創造～

2 本年度の研究内容

- ・生徒がよりよく生きる力を育むことができる魅力的な教材の開発や活用、及び指導方法の工夫改善と評価
- ・諸計画の見直しと校内研修の充実

3 本年度の成果と課題

【成果】

- ・精華西中学校で研究授業を行うことができ、生徒が主題に迫るための発問の工夫や、考え議論する道徳のあり方について研究を深めることができた。
- ・各校での実践交流を行うことができ、ICTを活用した新たな指導方法を模索することができた。
- ・夏季研修会を行い、研究授業の指導案を交流することができた。

【課題】

- ・生徒の実態に合わせた授業展開や発問の工夫改善を進め、研究主題に迫れる内容を深めていく。
- ・各校の校内研修をさらに充実させ、「考え、議論する」道徳科の創造に向けての工夫改善を深めていく必要がある。

令和6年度 綴喜地域 活動のまとめ

研究部	綴喜地方中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	京田辺市立田辺中学校 校長 中井 達
			部長	八幡市立男山第二中学校 教諭 日下 さくら
月	日	場 所	活 動 内 容	
5	23	京田辺市立 田辺中学校	○第1回主任会 ・部長、副部長の決定 ・年間指導計画の作成	
10	25	京田辺市立 田辺中学校	○第2回主任会 ・公開授業 ・各校の校内研の内容と教科書外の資料を交流	
2	6	京田辺市立 田辺中学校	○第3回主任会 ・今年度の成果と次年度の活動に向けて	
1 本年度の研究主題 「よりよく生きる力を育む道徳教育」 ～ともに語り合い、ともに深く考える「道徳科」の授業の創造～ 2 本年度の研究内容 ・魅力ある授業の創造に向けて、教科書を用いた効果的な授業の展開について研究を進める。 ・板書について、具体的な方法の交流や研究を進める。 ・各校の具体的な実践報告や生徒の実態にあった教材の交流、研究を進める。 ・視聴覚教材の交流を進める。 3 本年度の成果と課題 【成果】 ・校内研でしていることや、それぞれの学校で実践されている教科書以外の資料を交流した。 ・校内研究授業を実施できた。 【課題】 ・来年度、教科書改訂に伴う教材研究。				

令和6年度 城陽久御山地域 活動のまとめ

研究部	城陽久御山地域 中学校教育研究会 道徳研究部		顧問	久御山中学校 校長 公文代 哲夫
			部長	久御山中学校 教諭 松本 岳史
月	日	場 所	活 動 内 容	
7	4	久御山中学校	副部長校、研究授業校 決定 今年度の事業計画の確認、各校の実践交流	
10	30	久御山中学校	研究授業の指導案について意見交流 各校の実践交流	
12	4	東城陽中学校	研究授業の参観及び事後研究会	
1	8	久御山中学校	今年度の活動のまとめ 各校の実践交流 次年度への引き継ぎ事項の確認	

1 本年度の研究主題
主体的に深く考える道徳科の創造 ～語り合い学び合う授業を目指して～

2 本年度の研究内容

- ・授業研究を通して、ねらいを達成するための中心発問ができるよう、発問の内容や、それまでの流れを工夫する。
- ・各校の実践した資料、道徳通信等から、自校での更なる道徳教育を発展させていく。

3 本年度の成果と課題

【成果】

- ・事前授業の結果(指導案・板書・生徒の反応)を持ち寄り、研究授業について論議し、生徒がねらいに迫るための中心発問や授業展開を工夫することができた。
- ・各校の実践した資料や取組を交流し、自校に持ち帰ることができた。

【課題】

- ・生徒の実態に合わせた発問や授業展開を工夫し、語り合い学び合う授業となるようにさらに研究を進める。
- ・各校の実践を交流することはできたが、実践内容について深く協議することができなかった。

令和6年度 宇治地域 活動のまとめ

研究部	宇治市中学校教育研究会 道徳部		顧問	宇治市立黄檗中学校 教頭 小林 園
			部長	宇治市立宇治中学校 教諭 佐飛 泰成
月	日	場 所	活 動 内 容	
5	8	宇治中学校	第1回主任会 ※各校の交流、研究主題の設定、総会の内容確認 研究授業校の決定 など	
6	19	宇治中学校	第2回主任会 ※各校の交流、研究授業の日程や内容などの決定 など	
11	27	北宇治中学校	公開授業および第3回主任会 ※事後研及び各校の交流	
1	22	宇治中学校	第4回主任会 ※今年度の取組の総括 ※次年度の引継ぎ事項の確認 ※次年度の地域部長・副部長の選定 等	
1 本年度の研究主題 『主体的に深く考える道徳科の創造～語り合い学び合う授業を目指して～』				
2 本年度の研究内容 ①各校の実践内容を学ぶことで、自校に持ち帰り、生徒自身の心に訴える道徳教育の実践をしていく。 ②公開授業を行い、各校の道徳の授業や実践のふり返りを行う。				
3 本年度の成果と課題 【成果】 ①北宇治中学校岸田先生の公開授業から、タブレットを活用した道徳科の授業を参観し、ICTの効果的な活用について学ぶことができた。また、道徳の授業だけでなく、日々の教育活動全体の中で、内容項目について意識し、道徳性を高めていくことの必要性を確認できた。 ②各校の取り組み内容を確認することで、自校でのできることや取り入れたいことを確認することができた。 【課題】 ①各校における実践や資料の共有、交流を図ればよかった。 ②宇治市中教研道徳部として、今後の道徳科の授業の在り方を研究していく時間を十分に確保できなかった。				

令和6年度 乙訓地域 活動のまとめ

研究部	乙訓地方中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	長岡京市立長岡第二中学校 教頭 竹ヶ鼻 宏治
			部長	向日市立勝山中学校 教諭 佐飛 紀子
月	日	場 所	活 動 内 容	
6	12	長岡京市役所	第1回道徳教育研究部会 ・本年度の研究活動方針と活動計画の確認	
11	19	長岡第四中学校	第2回道徳教育研究部会 ・長岡第四中学校、1第1学年研究授業 資料名：木の声を聞く(あすを生きる『日本文教出版』) ・事後研修	
2	6	長岡第二中学校	第3回道徳教育研究部会 ・中学校教育課程京都府研究大会の報告 ・評価について各校の状況交流 ・次年度採用予定の教科書について	

1	本年度の研究主題 「主体的に深く考える道徳科の創造」～語り合い学び合う授業を目指して～
2	本年度の研究内容 ・中心発問に対して生徒の発言を予想し、生徒の心を揺さぶるための問い返しを精選した授業を研究する。 ・各校の授業実践を交流する。
3	本年度の成果と課題 【成果】 ・ローテーション道徳の実践が各校で進んできており、お互いに道徳の授業を参観する機会ができた。 ・研究主題を踏まえた授業公開を行うことができた。また、今年度の各校の実践を交流して、「考え、議論する」道徳の授業改善の視点について議論することができた。 【課題】 ・「考え、議論する」道徳を視点とした公開授業を積極的に実施し、授業の質的転換を目指すことを柱とした実践的研究をさらに進める。 ア 中心発問の精選 イ 生徒の心を揺さぶるための問い返しの工夫 ウ ICTを活用した授業改善 エ 授業に基づいた評価文の作成

令和6年度 亀岡地域 活動のまとめ

研究部	亀岡市中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	亀岡市立亀岡中学校 教頭 中司 和男
			部長	亀岡市立詳徳中学校 教諭 光枝 良祐
月	日	場 所	活 動 内 容	
7	1	亀岡市立詳徳中学校	第1回道徳教主任会 今年度の活動および研究方針の確認 地域副部長の決定 各校の実践交流	
1	21	亀岡市立亀岡中学校	第2回道徳主任会・公開授業 公開授業(中学1年生)事後研究会 各校の実践交流 予算決算について確認 今年度総括・次年度申し送り事項確認・検討	

1 本年度の研究主題

「主体的に深く考える道徳科の創造 ～語り合い、学び合う授業を目指して～」

2 本年度の研究内容

(1)市内各校での実践を交流し、効果的な道徳の授業の在り方について検討する。

(2)各校で道徳教育の推進、充実に向けた研修や指導体制の工夫に取り組む。

(3)各校の取組を共有・活用・蓄積するために、年度末に実践資料集を発行する。

(4)学習指導要領全面実施に伴い、これまで蓄積してきた研究をさらに深め、充実させる。

3 本年度の成果と課題

【成果】

- ・ローテーションを取り入れているところが多く他の教員の授業を見る機会につながっている。
(担任以外の教師が行うことで、生徒も新鮮な気持ちで授業を受けることができた。)
- ・各校で授業研究を行い、導入の入り方や授業の工夫点などを交流することができた学校もあった。
- ・ワークシートでの振り返りを実施し、生徒たちに道徳の授業の振り返りの機会があった。
- ・今までの道徳の積み上げができていると思われるので、さらに実践交流を積み上げていく。

【課題】

- ・ローテーションの意義を考え直さなければいけないという意見があった。メリット・デメリットをしっかりと見通した上で実践していくことが必要である。
- ・3年後に、府中研道徳が南船地域にて開催予定である。各校1名以上の参加も含めて考えていかなければならない。公開授業に参加する先生の数を増やしたい。

令和6年度 南丹・船井地域 活動のまとめ

研究部	南丹・船井 中学校教育研究会 道德教育研究部		顧問	南丹市立殿田中学校 教頭 磯川 卓史
			部長	南丹市立八木中学校 教諭 濱崎 早智
月	日	場 所	活 動 内 容	
4	24	南丹市立八木中学校	第1回主任会 ・研究主題・方針・年間活動計画等の策定	
7	8	南丹市立八木中学校	第2回主任会 ・各校で作成した「授業シート」交流 ・評価についての交流	
11	19	南丹市立八木中学校	第3回主任会 ・指導案持ち寄り、事前授業の交流	
2	4	南丹市立美山中学校	南船道德教育研究授業、第4回主任会 ・研究授業「撮れなかった一枚の写真」1年生 ・研究協議 ・今年度の総括等	
1 本年度の研究主題 「よりよい生き方について、ともに考える「道德科」の授業の創造に向けて」 ～子ども・教師・学校・保護者・地域のつながりの中で～ 2 本年度の研究内容 (1) 授業研究会などを通して、道徳的価値の自覚を深める授業展開を構想する。 (2) 多様な意見を引き出すための、南丹・船井地域共通の「授業作成シート」を作成する。 3 本年度の成果と課題 【成果】 - 教材を設定し、各校でねらいに沿った指導案を作成し、事前授業を実施した。 - 事前授業の結果(指導案・生徒の反応)を持ち寄り、「授業作り」について論議し、研究授業のねらいに迫る工夫を探ることができた。 - 各校で作成した「授業作成シート」の共有を行い、会議を重ねて共通のシートを完成させることができた。 - 近畿道德大会に参加し、情報を共有することで道德教育について研修することができた。 - 評価の共有を行い、各校での道德教育の推進・充実に向けた研修や指導体制の工夫が進んだ。 【課題】 - 授業展開・発問・評価等について、授業作成シートを用いながら、道德教育を発展・充実させる。				

令和6年度 綾部地域 活動のまとめ

研究部	京都府中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	綾部市立東綾中学校 校長 中垣 真由美
			部長	綾部市立綾部中学校 教諭 船越 美里
月	日	場 所	活 動 内 容	
5	8	中筋小学校	春季研究会 ・今年度方針の確認 ・ブロックの実践交流	
8	21	東綾中学校	夏季研究会 ・講演 ・教育課程研 復命研修	
1 本年度の研究主題 「主体的に深く考え、議論する道徳科の創造」 ～生徒が語り合いたくなる授業を目指して～				
2 本年度の研究内容 ・「主体的、対話的で深い学びのある授業」の研究 ・「考え、議論する授業」の実践交流 ・小中合同での指導案検討、交流、研究授業の実施				
3 本年度の成果と課題 【成果】 ・2回の部会を小・中合同で行い、小中一貫教育を意識して取組を進めることができた。 ・夏季研究会では、福知山市立成仁小学校の教諭である金森隆之様を招いて、「特別の教科道徳の授業づくり」について講演いただいた。主体的、対話的、深い学びに繋がる指導の方法について学んだり、教材研究の具体的な方法について教えていただいたりした。今後の道徳科の授業づくりに活かせる内容となった。 ・各校の先生方の実践交流や悩んでおられることなどを共有する場の設定を行うことができた。 【課題】 ・「考え、議論する」道徳科の授業づくりの方法について学べる場をさらに設定できればよかった。 ・今年度は授業研究会を実施しなかったため、教材などについて具体的に研究する場面が持てなかった。				

令和6年度 福知山地域 活動のまとめ

研究部	福知山地域 中学校道徳科教育研究部		顧問	桃映中学校 教頭 笹木大照
			部長	川口中学校 教諭 福田朋子
月	日	場 所	活 動 内 容	
8	23	福知山市立 桃映中学校	第1回部会(夏季全員研究会) 【全 体 会】中学校教育課程京都府研究大会復命、 年間活動計画 【研究協議】公開授業に向けた事前研究 【実践交流】 ・道徳科の授業と評価に関する悩みや疑問 ・自己(自校)の授業改善に向けた取組	
11	22	福知山市立 川口中学校	第2回部会(公開授業研究会) 【公開授業】川口中学校第1学年 【研究協議】 「考え、議論する道徳」を実現するための工夫・改善 ・公開授業に見られた授業改善の検証 ・自己(自校)の実践・取組の成果と課題	
1	10	福知山市内 各中学校	【意見交流】メールによる ・今年度の成果と次年度の活動に向けて	
1 本年度の研究主題 自己を見つめ、よりよく生きようとする生徒の育成 ～学び合い、つながり合い、深め合う授業を通して～				
2 本年度の研究内容 ・第1回研究部会(夏季全員研究会)では、公開授業研究会に向けた事前研究を行い、道徳科の授業と評価の改善・充実に向け、各校道徳教育推進教師の意識高揚を図った。 ・第2回研究部会では、公開授業研究会を実施し、ねらいに迫る発問の工夫や、授業展開の協議を行った。また、各校の実践・取組の交流を行い、情報共有をした。				
3 本年度の成果と課題 【成果】 ・事前の研究協議(第1回)で「考え、議論する道徳」を実現するための手立てについて検討したうえで、公開授業で実際に生徒が学ぶ姿を参観し、発問構成や授業展開の効果等について検証することができた。 ・事後の研究協議(第2回)では、ねらいとする道徳的価値の理解をさらに深めるための改善点について、活発な協議を行うことができた。 【課題】 「考え・議論する道徳」への質的転換を目指し、生徒が自己の生き方について考えを深めることができるような授業づくりを一層推進するため、具体的な授業実践の事例を市内中学校全体で交流する方法を試行する。				

令和6年度 舞鶴地域 活動のまとめ

研究部	舞鶴市中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	舞鶴市立城北中学校 教頭 井上 泰正
			部長	舞鶴市立青葉中学校 教諭 水上 恒次郎
月	日	場 所	活 動 内 容	
4	17	城南中学校	道徳教育部部会 ・本年度の活動方針、研究計画及び事業計画の確認	
9	11	青葉中学校	研究授業 研究協議	

1 本年度の研究主題

語り合い、学び合う道徳を通じて、「豊かな人間性をはぐくむ教育」の充実を図る。

2 本年度の研究内容

(1) 「考え、議論する道徳」を目指して、各学校で実践した資料や指導案・補助資料などの交流を行い、道徳教育の推進を図る。

(2) 公開授業や模擬授業を通して指導方法の研究を進める。

(3) 評価方法の研究を深める。

(4) 小中一貫教育の視点を大切にし、9年間を見通した道徳教育を進める。

(5) ICTの効果的な活用について研究を深める。

3 本年度の成果と課題

【成果】

・授業研究会や事後研究会を通して、舞鶴市全体の実践について交流し、日々の授業に生かすことができた。

・事後研究会の中でロールプレイの方法や切り替えし発問について意見の交流ができた。

【課題】

・府の発表を昨年度終えたが、引き続き研究を進めたい。

・ICT(タブレット)の効果的な活用について、各校の様子を交流し、研究をしていく必要がある。

・教材や評価方法について、各校で行ったものを積極的に交流し、より良い授業、評価の仕方について考えていきたい。

令和6年度 与謝地域 活動のまとめ

研究部	与謝地方 中学校教育研究会 道德教育研究部		顧問	宮津市立宮津中学校 教頭 西村 和也
			部長	宮津市立栗田中学校 教諭 秦 真悟
月	日	場 所	活 動 内 容	
4	17	加悦中学校	第1回部会	・活動方針、事業計画、予算計画について
6	23	伊根中学校	第2回部会	・授業研究会「襟裳のこと」 橋倉 香澄 教諭（伊根中学校） ・実践交流、予算について
8	20	加悦中学校	第3回部会	・道德の指導案、評価の交流 ・地域部長会の報告
10	28	宮津中学校	第4回部会	・授業研究会「タッチアウト」 鶴崎 綾菜 教諭（宮津中学校） ・出前講座 京都府総合教育センター 研究主事兼指導主事 岩崎 佳子 様
1	20	橋立中学校	第5回部会	・今年度のまとめ ・予算計画の作成
1 本年度の研究主題 「主体的に深く考える道德科の創造～語り合い学び合う授業を目指して～」 2 本年度の研究内容 ・授業研究会を通じた授業づくりについての研究 ・実践交流（各校で実践した校内研修・指導案の交流） ・出前講座を受講し、道德の授業資質の向上を図った。 3 本年度の成果と課題 【成果】 ・校内研修の内容や授業の取り組み方についての交流を行い、各校の道德教育の向上に活かすことができた。 ・研究授業を通して、語り合い学び合う授業について研究を深めることができた。 ・出前講座を依頼し、道德の授業における基本的な考え方を学ぶことができた。 【課題】 ・語り合い学び合う授業となるように、授業づくりの研究をさらに深める。 ・道德の授業を実践する中で、ICTの活用や評価のあり方について研究していく。				

令和6年度 京丹後地域 活動のまとめ

研究部	京丹後市 中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	京丹後市立大宮中学校 校長 田辺 健二
			部長	京丹後市立峰山中学校 教諭 山田 友希
月	日	場 所	活 動 内 容	
5	7	峰山中学校	第1回部会 役員体制、本年度の研究テーマ、活動計画等の決定	
7	2	峰山中学校	第2回部会 府中研地域部長会の報告、教育課程研の伝達講習 評価について振り返りと今年度の方向性の確認 研究授業の事前研究	
10	15	丹後中学校	第3回部会 研究授業・事後研究会 C-(10)「人に迷惑をかけなければいいのか？」 丹後中学校 谷田葉子 教諭	
12	3	峰山中学校	第4回部会 府中研地域部長会の報告 評価についての確認と評価評定基本表の見直し 今年度の研究についてのまとめ	
1 本年度の研究主題 よりよい生き方を育む道徳教育 ～語り合い、深く考える「道徳科」の授業の創造～				
2 本年度の研究内容 (1)「語り合い、深く考える」授業づくりに向けた授業研究 (2)「令和7年度版評価・評定基本表」作成に向けた評価の振り返り、方針等の確認 (3) 実践交流				
3 本年度の成果と課題 【成果】 ・第2回部会では研究授業のための事前研究を行い、意見を出し合いながら授業づくりをすることができた。事後研究会では、授業場面で教師がどのような働きかけをすると良いかについても考えることができた。これらの学びを各校の実践にも役立てることで、授業改善にもつながった。 ・第3回部会で授業実践についての交流を行った。生徒が想像しにくい内容項目についての内容理解のアイデア交流を行うことができた。 【課題】 ・今年度の研究授業は、各校道徳主任以外の参加が少なかった。 ・他地域での実践や研修等で得た学びを部会で交流する機会が少なかった。 ・発問や振り返りについて、また生徒が想像しにくい内容項目に関わる授業づくりについて等も今後研究の柱としながら、来年度も共に授業を作る機会をもつ。 ・個別最適化、配慮の必要な生徒への授業づくりについても交流する機会をつくっていききたい。				

各地域の学習指導案

- (1) 相楽地域
- (2) 綴喜地域
- (3) 城陽・久御山地域
- (4) 宇治地域
- (5) 乙訓地域
- (6) 亀岡地域
- (7) 南丹・船井地域
- (8) 綾部地域
- (9) 福知山地域
- (10) 舞鶴地域
- (11) 与謝地域
- (12) 京丹後地域

道徳科学習指導案

精華町立精華西中学校
指導者 有田 篤生

- 1 対 象 第 2 学年 2 組 39 名
- 2 日 時 令和 6 年 10 月 28 日（火曜日） 第 6 校時（14：25～15：15）
- 3 場 所 第 2 学年 2 組 教室
- 4 主題名 <よりよく生きる喜び D（22）>
- 5 教材名 タッチアウト
- 6 本時のねらい
自分の過失を隠したことについて、良心の呵責を感じ続ける「僕」の思いについて考えることを通して、人間のもつ気高く生きようとする心に気付き、自らの弱さや醜さを克服して、よりよく生きようとする道徳的心情を育む。
- 7 授業改善の視点（「やましろ授業スタンダード」等を活用した授業づくり）ICTの効果的な活用等）
大型テレビのモニターを活用し、視覚的にも授業の流れを確認できるようにする。
- 8 本時の展開

過程	学習活動	学習形態	主な発問 予想される児童の反応	指導上の留意点	資料・評価等
導入 5分	自身の経験を振り返る	一斉	○「タッチアウト」という言葉の意味を確認する。	本時の題材を紹介し、題材への意識付けを図る。	パワーポイント
展開 40分	読み物資料「タッチアウト」前半を読み、話し合う。	一斉 個別 ↓ 一斉	○主人公は落球していることを正直に話すべきだろうか？ <話すべき> ・ズルをして勝ちたくない ・相手チームに申し訳ない ・試合を録画されているかもしれない <話すべきではない> ・チームが負けてしまう ・ルール上問題ない	教材を範読する。 ディスカッション形式で、どちらの方が正しい行動だったのかを、様々な視点から考えさせる。	大型モニター パワーポイント 教科書 パワーポイント
	読み物資料「タッチアウト」後半を読み、話し合う。	個別 ↓ 一斉	○ホームに応援に来てくれた人に顔を合わせず、腕を組んでシートに座る主人公の中でどんな思いが戦っているのだろうか？ <天使の声> ・応援してくれる人に申し訳ない ・相手チームのことを考えないと ・自分にとっても誇れない <悪魔のささやき> ・喜んでいる仲間を裏切れない ・いまさら言っても仕方がない ◎天使の声が守ろうとしているものは何だろうか？ ・良心 ・誇れる生き方 ・周囲の人の思い	資料後半を範読する ルール上は問題ないにもかかわらず、主人公が悩み、不安になる理由を考えさせる。 天使の声が無くても生きることが出来るが、ある場合とどのように生き方が変わるのかを考えさせる。	教科書 パワーポイント 【評価】 人間のもつ弱さを克服して気高く生きようとする道徳的心情を理解させる。
	本時の振り返りを行う。	個別	○1時間に学んだ内容を自分と重ねて、今日の授業を通して感じたことや考えたことを感想でまとめよう。	ワークシートに記入させる。	ワークシート
終末 5分					

道徳科学習指導案

京田辺市立田辺中学校
指導者 左野 智之

- 1 対 象 第 3 学年 7 組 37 名
- 2 日 時 令和 6 年 10 月 25 日 (金曜日) 第 6 校時 (14 : 35 ～ 15 : 25)
- 3 場 所 第 3 学年 7 組 7 組教室
- 4 主題名 郷土の発展に寄与する〈郷土の伝統と文化の尊重・郷土を愛する態度 [中学校 C・(16)]〉
- 5 教材名 ぼくらの村の未来 (「ココロ部!」NHK for School)
- 6 本時のねらい

・教材「ぼくらの村の未来」を題材に、便利な暮らしと村の発展を望むか、あるいは、従来通りに豊かな自然の中での生活を維持継続させていくことを望むかを考え、意見や考えを交流する話し合い活動を通して、郷土を愛し、郷土の発展のために地域社会の形成に参画しようとする意欲や態度を高める。

- 7 授業改善の視点 (「やましろ授業スタンダード」等を活用した授業づくり)

・モニターを活用し、視覚的に情報を整理させ、自分の考えを持たせやすくすることで深い学びにつなげる。
・活動や発問を通して、他者とコミュニケーションを図る上で、互いの立場を尊重し相互理解・寛容に行動することの大切さを追及する態度を育てる。

- 8 本時の展開

過程	学習活動	学習形態	主な発問 予想される児童の反応	指導上の留意点	資料・評価等
導入 5 分	・本時の学習課題を知る。	一斉	○京田辺市にあれば便利、こんなものが身近な生活にあれば便利というものは？ ・大型ショッピングモール。 ・映画館、動物園、水族館などのレジャー施設。	・自分の考えを自由に発表することのできる雰囲気を作る。	
展 開 4 0 分	・動画視聴し、課題を確認する。 (～8 : 58) ・個人で課題について考える。	一斉 個人	○あなたは道路建設に「賛成」か「反対」か。 ・賛成。 (生活が不便、町おこしになる) ・反対。 (自然は簡単に戻らない、町の良さ)	・村の現状と対立する意見について確認し、どちらの意見を選択するか、考えさせる。 ・その意見を選択した理由についても考えさせる。	・タブレット ・スライド ・PP ・WC、GW 【評価】 その意見を選択した理由に至った自身の考えを論理的に説明することができる。
	・意見交流する。	グループ ↓ 一斉	○どちらの意見を選択すべきか。 ・道路を建設すべき。 ・道路は建設すべきでない。	・ネームプレートを使い、誰がどちらの意見か可視化した上で、4人グループで意見交流をさせた後、ロイロノートを使い、理由と共に意見を交流する。(テキスト色分け)	道路建設賛成の意見が多くなることが予想される中、少数意見を尊重する観点に立ち、より良い方法を模索しながら、自身の意見について再度考えることができる。
	・少数派に寄り添った方策を考える。	グループ	○少数派の人々に寄り添ったよりよい方法はないだろうか？ ・地下に道をつくる。 ・ロープウェイを使えば、空気を汚さないのではないか。	・地域社会全体にとっての物事の是非を考えることの難しさ、よりよい方法について考えさせる。	
	・これからの京田辺市を考える。	個人	◎これからの「京田辺市」について考えるとき、私たちが大切にすべきことは何だろうか？ ・様々な立場の人の思いや生活に寄り添いながら、自らも京田辺市に暮らし一員として、人々が地域社会の形成に参画しようとする姿勢をもつこと。	・ホワイトボードを使い、それぞれのグループの考えた方法について交流する。	自分の暮らす地域に置き換えて考察している。
終 末 5 分	・本時の振り返り。	個人	○本時の学習の中で、考えたこと・感じたこと・気づきなどを文章でまとめよう。	・本時の授業の振り返りと今後の生き方を結び付け、文章化させる。	

授業風景



道徳科学習指導案

城陽市立東城陽中学校
指導者 村田 寿美子

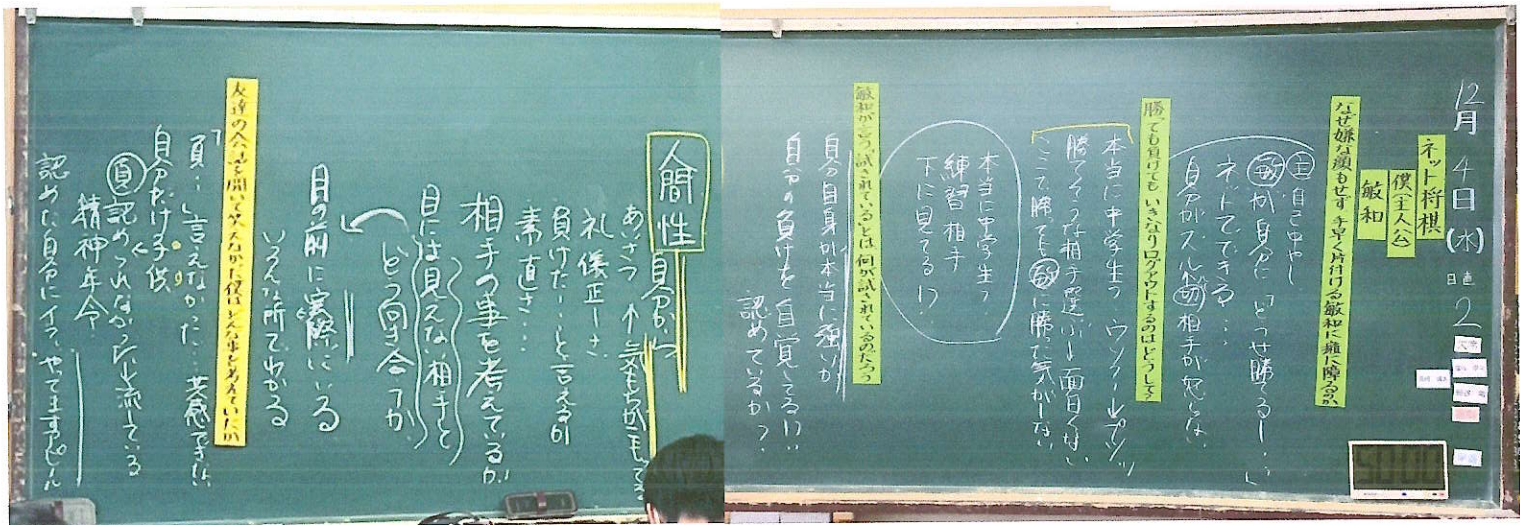
- 1 対 象 第1学年3組 33名
- 2 日 時 令和6年 12月 4日（水曜日） 第5校時（13：10～13：55）
- 3 場 所 第1学年3組 教室
- 4 主題名 誠実に責任をもつこと 〈自主、自律、自由と責任 A（1）〉
- 5 教材名 ネット将棋 （廣済堂あかつき）

6 本時のねらい

見えない相手に対し、敗者が自ら「負け」を宣言するネット将棋の対局で考えを深める主人公の姿を通して自分自身と向き合い、自律の精神を重んじ誠実に行動しようとする道徳的実践意欲を高める。

7 本時の展開

過程	学習活動	学習形態	主な発問 予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	○将棋について知る。	一斉	○将棋をしたことはありますか。 ○将棋って、勝ち負けが分かる時ってまだ打つ手があっても分かるって本当？	将棋の特性を告げ、先を読めば自分の負けが分かることを知らせる。
展開 35分	○資料を黙読する。	一斉	「なんでかな」「なるほどな」と思うところに線を引いて下さい。	資料を範読する。
	○僕の敏和への目線に気付く。	一斉	○なぜ嫌な顔もせず、手早く駒を片づける敏和にかえって癪に障るのだろう。 ・自分より上だと思っているように見えるから。 ・自分は負けそうで焦っているのに、余裕をかましているように見えたから。	追発問：敏和にはなぜ時間切れにしたか。
	○僕のネット将棋相手に対する思いについて推測する。	一斉	○勝っても負けても、僕がいきなりログアウトするのはどうしてだろう。 ・悔しくて負けたと認めたくない。 ・どうせ2度と会うことはないから。 ・相手の顔が見えないから、少々失礼でも構わない。	追発問：勝ってもそうするのはなぜか。
	○敏和の学びを理解する。	一斉	○敏和が「試されている」というのは、何が試されているのだろう。 ・自分の人間性 ・自分が負けたと認め、謙虚になれるかどうか。 ・自分のプライドは本物かどうか。	敏和はどんな弱さを克服しているかを理解させる。
終末 5分	○自分を振り返る主人公「僕」の気づきについて考える。	一斉	◎友達の会話を聞いて笑えなかった僕は、どんな事を考えていただろう。 ・自分は、みんなから取り残されている ・自分は、勝敗にこだわって何も学んでいない。	
	○感想文を書く。	個人	今日の授業で考えたことや感想を自由に書こう。	



事後研究会より

- ・生徒の意見を大切にしているため、考える時間を確保している。
→ 号令から資料の読み取りまでの時間をできるだけ短く。
- ・生徒の意見の引き出し方が素晴らしく、終始発言しやすい雰囲気であった。
- ・一生懸命考えている生徒が多く、多角的な視点からの発言も多くあった。
- ・「試されているとは」という発問が難しく、内容の整理や発問の工夫が必要であった。
- ・45分授業ということもあり、感想を書く時間が十分に確保できず全体で交流できなかった。
→ 道德通信を作成し、感想を全体で共有する。

生徒の感想より 一部紹介

- ・礼儀は他の人のためにも自分のためにもなっていくと思う。
- ・見えていない相手でも、見えているような感じで接していく人間性が、生きていくのに必要だと感じました。
- ・人間性は、人間として生きていくのに必要な礼儀やマナーを正しく守っていくことだと思います。
- ・主人公の負けを認めたくないという気持ちを変えた友達がすごいなと思った。

道徳科学習指導案

宇治市立北宇治中学校
指導者 岸田 智恵

- 1 対 象 第3学年3組 33名
- 2 日 時 令和6年11月27日(水曜日) 第6校時(14:05～14:55)
- 3 場 所 第3学年3組 教室
- 4 主題名 思いやり、感謝 〈中学校 B(6)〉
- 5 教材名 「月明りで見送った夜汽車」
- 6 本時のねらい
相手のことを考える思いやりのよさや大切さに気づき、深い理解と共感に基づく思いやりの心を大切にする道徳的心情を育む。
- 7 授業改善の視点(新学習指導要領の趣旨を踏まえた視点(主体的・対話的で深い学び、ICTの効果的な活用等))
読後の余韻を活かした展開となるよう授業後は自分の考えをオクリンクプラスを活用し、テーマを設定して記述させる。また、それをクラスで交流し、新たな考えに触れる機会とする。
- 8 小中一貫教育の視点
思いやりを題材にした道徳授業は小学校でも数多く触れているが、今回の相手の重荷にならない「粋」な思いやりや心意気に触れ、さらに深い道徳性豊かな心情を育んでいく機会としたい。
- 9 本時の展開

過程	学習活動	学習形態	☆主な発問★中心発問 ◎予想される児童の反応	指導上の留意点	資料・評価等
導 入 1 0 分	・思いやりについてのアンケートの集計結果を共有する。	集団	☆アンケート「今までに自分がしたり、相手にしてもらった思いやりのある行動のエピソードを教えてください。」 ◎「気持ちがいい」「してもらったら嬉しいと思う」「いい気遣いだと思うが自分はできない」など	その行為にとどまらず、根底にある思いも掘り下げて考えられるように促す。	forms
展 開 3 0 分	・資料「月明りで見送った夜汽車」を読み、考えを発表する。	個人 グループ	☆仕事の途中で出ていく！先生はどのような思いだっただろう。 ☆みんながその場で仕事をする仲間だったら、！先生が発発することについてどのように感じますか。 ★「オー」という声と、拍手はどのような思いから湧き上がってきたのだろう。 ◎「Y先生の考えに賛成したから」「心が温かくなったから」「みんなで応援しようという気持ちになった」 →オクリンクプラスで提出、共有する。	テンポよく、たくさんの意見を聞き出せるようにする。 オクリンクを活用し、自分の意見をしっかり記述できるよう指導する。 難しい場合は、個別で具体的な発問をするなどの対応をする。	資料から思いやりの根底に流れる想いや考え方について考えることができたか。
終 末 1 0 分	・発問について自分の考えを書いて提出する。	個人	☆今日の授業を通して、「思いやりの心」について自分の考えを書いてみましょう。 ◎「支え合ったり、助け合ったりする仲間がいるのはいいことだと思った」「思いやりを持って人と接することができるように考えていきたい」		今後の自分の行動のあり方について考えようとしていたか。

1 日時 令和6年11月19日(火) 6時間目

2 学級 第1学年2組31名

3 主題名 「自然を愛する」(内容項目D-(20)自然愛護)

4 教材「木の声を聞く」(「あすを生きる」日本文教出版)

5 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

自然の大きな営みの中で生かされている人間が、自分もまた自然の一部であるという、謙虚な気持ちで自然と向き合っていくことの大切さに気づかせたい。そして、生きとし生けるものの生命を大切に
する実践意欲を育てたい。

(2) 生徒の実態

全体的に明るく素直であり、活発である。入学当初、仲間と協力して取り組むことや、真剣に何か
に向かうことが苦手な生徒が多かった。しかし、1学期の学級生活を通して、課題に向き合い、仲間
のために責任を果たすことや協力することの喜びを学び、意欲的に行動することができるよ
うになった。

(3) 教材について

木の声を聞くことをとおして木がもつ力を確信した樹木医である主人公・塚本こなみさんの樹木に
寄せる思いを中心に、自然の生命の尊厳について考えを深めることができる教材である。樹齢 150
年ほどの大藤の生命力を確信し、移植に取り組む塚本さんの考えに触れ、自然と人間の関係について
考えさせたい。

6 本時のねらい

自然の生命力と崇高さを知り、自然に謙虚に向き合いながら自然の愛護に努めようとする実践意欲
を育てる。

7 本時の展開

過程	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	・自然の生命力と崇高さについて、イメージを持つ。	満開に咲き誇る大藤の写真を見て、何を感じたか。 (予想される生徒の反応) 「美しい」 「素晴らしい」 「神秘的だ」	○抽象的なものから具体的なものまで自由に意見がでる雰囲気をつくる。

展開	- 教材を範読する。 - あらすじの確認。 - 主人公の気持ちを考える。 - たどりついた主人公の気持ちを考える。 - 再び大藤の写真を見た感想を書く。 - 主人公の気持ちを自分の気持ちと置き換えて、自分が自然に対する行動を考える。	塚本さんが、木の声を聞くと、祈りをささげて聞くのは、どのような思いからだろうか。 (予想される生徒の反応) 「数百年という人間よりもはるかに長く生きているから。」 「木の命をどうしても助けたいから。」 「木の命も人の命も同じだから。」 (中心発問) 塚本さんが、樹木医として木の声を聞き続けてきたことで、たどり着いた樹木や自然への思いはどのようなものだろう。 (予想される生徒の反応) 「植物の命も人間の命と同じ価値がある。」 「何百年も生き続けられるすごさ。」 「生命力を信じて手伝う。」 シールに感想を書き、用紙に貼る。 (問い返し) 植物の命と人間の命は、本当に同じ価値があるのだろうか。 (予想される生徒の反応) 「人も自然も同じ生命を持っているから、同じ価値がある。」 「花や木が持っている生命力を知ったので、同じ価値がある。」 「植物にも人と同じような生命力があったので、同じ価値がある。」	- 教材を音読する。 - 自然の生命力と崇高さに気づかせる。 - 他の生徒の意見と自分の意見とを比較しながら、追求して考えさせる。(グループ交流) - 用紙にシールを貼らせる。 - 発表後、問い返しをして、さらに考えさせる。
終末	道徳ノートに本時のまとめを記入する。	今日の授業で、感じたこと、気づいたこと、考えたことを「道徳ノート」に記入し、交流する。	今日の授業での気づきを丁寧に記入させる。

8 評価の視点

中心場面での意見や道徳ノートに自然に謙虚に向き合いながら自然の愛護に努めようとする発言や記述がある。

<板書計画>

木の声を聞く

登場人物 塚本 こなみ さん (樹木医)

(写真から) ・美しい・素晴らしい・神秘的だ

(木の声を聞く) ・数百年という人間よりもはるかに長く生きて
いるから

木の声を聞き続けたこと
でたどり着いた思い

・植物の命も人間の命と同じ価値がある。

・何百年も生き続けられるすごい。

・人と同じで大切な命

自然とどのような関わり方を
していくことが大切であるか
と思うか。

・人も自然も同じ生命を持っているから、自然を
大切にしていきたい。

・花や木が持っている生命力を知ったので、人
と同じように育てていきたい。

道徳科指導案

亀岡市立亀岡中学校

- 1 学 年 第2学年（1～4組） 令和7年1月21日（火）5時間目 13：25～14：15
1組：山田 啓太 2組：茂木 三志郎 3組：甲斐 千尋 4組：神田 侑佳
- 2 主題名 「弱さを乗り越え、よりよく生きる」（内容項目D よりよく生きる喜び）
- 3 ねらい 友達の手紙を捨てて自分のものにしてしまったことを言い出せなかった主人公の姿を通して、心の弱さを乗り越えさせるものとは何かについて考えさせ、自分も弱さを乗り越えて生きていこうとする心情を育てる。
- 4 教材名 「銀色のシャープペンシル」
(出典「中学道徳1 きみがいちばんひかるとき」 光村図書)

5 学習指導

	学習活動	主な発問と予想される生徒の動き	指導上の留意点
導 入	1. 教師の話より考える	○教師からの話 ○「心が弱いなあ」と思う場面を考えてみよう テーマ：心の弱さを乗り越えさせるものは何なのかを考える	○「心の弱さ」とは何か「ちょっとくらい」という弱さを誰もが持っている意識を持たせる
展 開	2. 教材を読んで話し合う（前半P134L7 後半に分けて：教師範読） 3. 全体で考え、全体に意見を広げる 4. 卓也の家に向けて歩き出したあとを想像する	◎「ちょうどいいやと思ってポケットにしまった」とき「僕」はどう思っていたのか ・ラッキー ・黙っていたら分からない ・いや、ただ落ちてたから拾っただけやん・・・ ○「何を言ってるんだ」「ロッカーに突っ込んだ」「すぐに電話を切った」などのとき、「僕」はどんな気持ちだったのか ・やばいと思っている ・逃げている ・うそを積み重ねている ◎突然「ずるいぞ」と聞こえた声は「誰の声」だったと考えますか ・自分自身の声、心の声 ・章雄 ・神様 ・卓也 など ○なぜそんな声が聞こえたのか ・自分を正すため ・神様が教えてくれた ○「僕」はこの後・・・ ・謝る ・謝りに行かない ・シャープペンを返しに行く など	○話を読みながら「僕の心の弱さ」の部分にも気づかせる ○できるだけたくさんの意見を出させる ○たくさんの考えや意見を出させる ○挙手をさせ、学級全体で交流する ○個人で発表か班で発表させる
終 末	5. 今日の学習で気づいたことや学んだことをまとめる		○考えをまとめ、落ち着いて感想を書く時間をとる

1 日時・場所 令和7年2月4日(火) 5校時 1年A組教室

2 学年・組 第1学年A組 29名

3 主題名 D(22)よりよく生きる喜び

4 資料名 「撮れなかった一枚の写真」

5 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

人間は自分の利益のみを考えたり、誘惑に負けてしまったり誰しも弱い部分がある。しかし同時に人間には弱い部分と向き合いそれを克服しようとする強さや自己の良心に従って生きようとする心がある。生徒にとって、自分の弱さと向き合ったりよりよく生きることについて考えたりする機会は少ないかもしれないが、これまでの生活や経験と結びつけながら「よりよく生きる」とはどのようなことか、自分のこととして捉えさせたい。

(2) 生徒の実態

中学校で過ごすことにも慣れ、自分の良さを発揮したり、仲間の良さを認め合ったりできる集団である。しかし、周囲が傷つくような言動をしてしまったり、自分の思いだけを考えたりする場面もある。このような生徒が自分の弱さに気づき、様々な葛藤を乗り越えよりよく生きるとはどのようなことなのか考えられるような時間にしたい。

(3) 資料について

プロのフォトジャーナリストである吉田ルイ子さんが、戦地である親子に出会ったときに写真を撮りたいのに撮れなかったという葛藤を通して「一人の普通の人間でありたい」と気づく読み物教材である。

6 本時のねらい

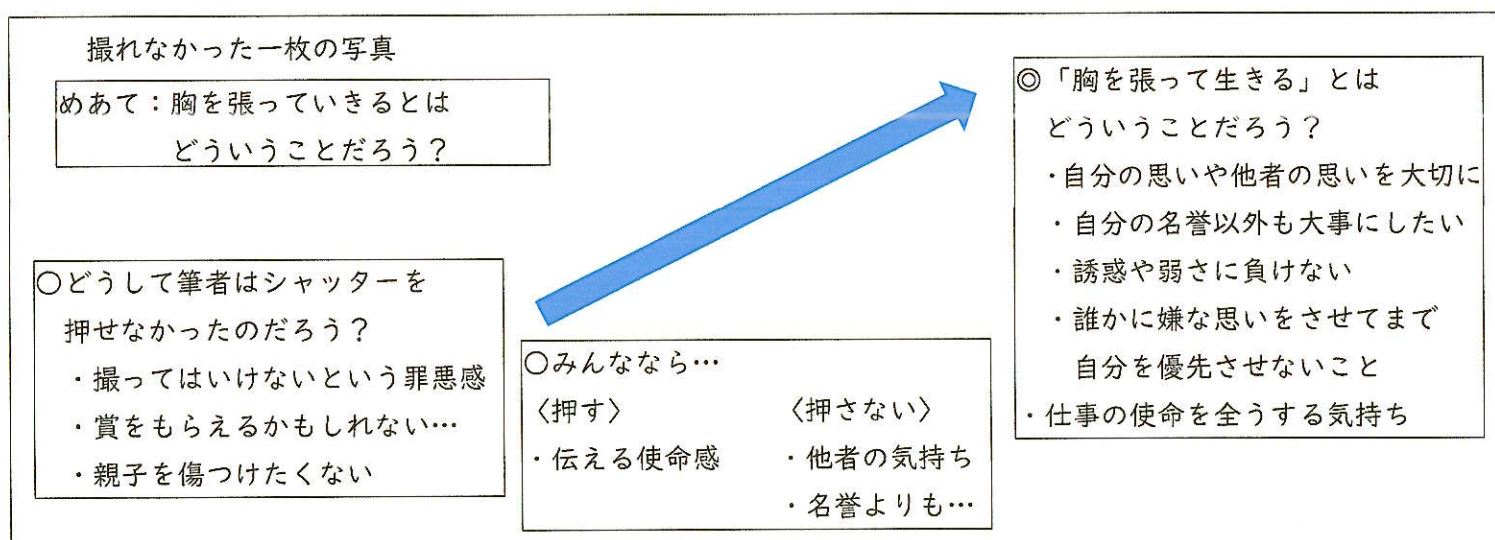
フォトジャーナリスト・吉田ルイ子さんの生き方を通して、人間は自身が持つ弱さを克服する強さがあることを理解し、よりよく生きていこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

7 本時の展開

過程	学 習 活 動	発問と予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 「胸をはって生きる」とはどのようなことか考える。 〈個人・ペア〉	○「胸をはって生きる」とはどのようなことか、具体的に考えてみましょう。 ・嘘をつかずに正直にすること。 ・周りの人を大切にすること。 ・自分の目標に向かって努力すること。	・「胸をはって生きる」ということが具体的にはっきりしないかもしれないが、何らかのイメージを持たせる。
		【考えよう】胸をはって生きるために大切なことは何だろう。	
展開	2 「撮れなかった一枚の写真」を読んで考える	〈補助発問〉 ○吉田ルイ子さんの仕事はどんな仕事ですか。 ・戦争などの状況を写真で伝える仕事 ○母親と赤ん坊を見たとき、筆者はどうしてシャッターを押せなかったのでしょうか。〈個人→ペア〉 ・撮ってはいけないような気がしたから。 ・撮ったら賞がもらえる可能性もあったけれど、親子を傷つけたくなかったから。 ・母親が子どもを守る姿に圧倒されたから。 ○あなたがルイ子さんと同じ状況になったら、シャッターを押す？押さない？〈個人→ペア〉 〈押す〉 ・ジャーナリストとして社会に伝える使命があるから。 〈押さない〉	・筆者の職業などおさえておくべき事柄を口頭で確認する。 ・シャッターを押せなかったときの葛藤や良心の呵責などの気持ちに気づかせる。 ・押す側、押さない側それぞれの価値観をゆさぶるような問い返しをしていく

		・他者に嫌な思いをさせてまで仕事をするのではなく、自分の思いや他者の気持ちを考えたい。 ・自分の名誉よりも大切なことを大事にしたい。 ・自分の弱い部分に負けない人でありたい。	・どちらかの選択が正解というわけではないことを押さえ、議論させる。
		〈中心発問〉「胸を張って生きる」とはどういうことだろう？	
		〈個人→発表〉 ・自分の思いや他者の思いを大切にする。 ・自分の名誉以外も大事にしたい。 ・誘惑や弱さに負けない。 ・誰かに嫌な思いをさせてまで自分を優先しない。 ・仕事の使命を全うする気持ち。	
終末	3 振り返り	○今日のテーマについて思ったことを書きましょう。	

8 板書計画



特別の教科 道徳 学習指導略案

綾部市立綾部中学校

指導者 船越 美里

1 対象 第3学年3組(32名)

2 日時 令和6年9月19日(木)第5校時

3 主題名 「よりよく生きる喜び」(内容項目 D-(22))

4 教材名 「足袋の季節」

5 本時のねらい つり銭をごまかし、それを償うことができなかった過去のことを振り返った随筆を通して、自分の弱さや醜さを見つめてそれを乗り越えることの大切さについて考え、誠実に生きようとする心情を育てる。

6 本時で目指す3つの「J」(自己選択・自己決定・自己調整)の姿

自己選択・自己決定	①発問に対する自分の答えを持っている。
自己調整	②ほかの考えを参考にすることで、考えが変わったりより深く考えたりしている。

7 本時の展開

過程	学習活動	主な発問 予想される児童生徒の反応	指導上の留意点	資料・ 評価等
導入 5分	1 人間の弱さや醜さについて、日常生活を振り返って具体的なイメージをもつ。	○自分の弱さを感じる瞬間はどんなときですか？ 人がもつ弱さをみつめ、それを乗り越える力について考えよう。	・教師の具体例を示す。	
展開 40分	2 「足袋の季節」を読んで考える。	○40銭で足袋を買ったとき、「私」は「うれしい」という気持ちと「申し訳ない」という気持ちのどちらが強かったのだろう。 ○「泣けて泣けてどうしようもなかった」ときの「私」は、どんなことを思っていたのだろう。 ・なぜ、自分はもっと早くに謝りに行かなかったのだろう。 ・自分には、もう謝ることも恩返しすることもできない。 ◎「私」はどうして「あのおばあさんが私にくれた心を、今度は、私が誰かに差しあげなければならない」と思うのだろう。 ・自分も、おばあさんのように誰かの支えになりたいから。 ・おばあさんがくれた「思いやりの心」をなくしてはいけないから。	・思考ツールを活用し、自分の考えを明らかにする。理由も考えるように促す。 ・主人公の後悔の気持ちを想像させる。 ・「自分に対して」「おばあさんに対して」など多面的に考えられるように促す。	・教科書 ・道徳ノート

終 末 5 分	3 道徳ノートにまとめを記入する。	○自分がもつ弱さを乗り越えるために大切なのは、どんなことだろう。	・授業で考えたり、感じたりしたことをふまえて記述するように促す。	・道徳ノート
------------------	-------------------	----------------------------------	----------------------------------	--------

8 「あい」のある学習で確かな学びを目指す視点

【主体的な学び】の手立て

- ① 日常の自分の言動をふり返り、資料と出会う。

【対話的な学び】の手立て

- ② 班の仲間と意見を交流し、自分の考えを広げる。

【深い学び】への手立て

- ③ 自分の弱さや醜さを見つめてそれを乗り越えることについて、多面的に考える。

道徳科学習指導案

福知山市立川口中学校

指導者 福田 朋子

1 対象・場所 第1学年1組・2組 17名 1年1組教室

2 日 時 令和6年11月22日 木曜日 第6校時 14:25～15:15

3 主題名・教材名 生命の尊さについて考える（内容項目 D-(19) 生命の尊さ） 「捨てられた悲しみ」

4 本時の目標 生命を尊ぶことについて理解し、身近な生き物の命を大切にしていこうとする道徳的心情を育む。

5 本時の展開（1／1）

過程	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (5分)	○本時の教材について知る。	○これまでにペットを飼った経験、あるいは生き物を育てた経験を振り返ろう。 ・家で犬(猫)を飼っている。 ・今は飼っていないけれど昔飼っていた。 ・小学校で金魚を育てていた。	○飼ったことがない、育てたことがない生徒には「ペットを飼うよさ」を考えさせたり、「飼ってみたいか」と尋ねたりする。
	めあて：身近な生き物の命を守るために大切にしたいことは何だろう。		
展開 (40分)	○「捨てられた悲しみ」前半(P.102～103)を読む。 ○生き物に関する実情を知り、背景を考える。 ○「捨てられた悲しみ」後半(P.104～105)を読む。 ○「命の重み」を考え、自他の生命を尊重しようという意欲を高める。	○[資料1～3]を読んで、気づいたことを伝え合おう。 【資料1】 ・猫の方が引き取り数も殺処分数も多い。 ・他の生き物はどうだろうか。 【資料2】 ・人間の都合による自分勝手な理由が多い。 ・飼う前に考えておけばよかったこともある。 【資料3】 ・チェック表の項目は大切な視点だと思う。 ・生き物は喋らないけれど悲しいと思っているはずだ。 ・「ペットを飼っていること」だけが自慢のようになっている場合がある。 ◎こずえさんは、犬や猫の世話をしているとき誰にどんなことを思っているだろう。 [犬猫への哀れみ] ・せめて最期くらいは良い思い出を残したい。 ・人間のせいでこうなってしまう申し訳ない。 [飼い主への怒り] ・自分勝手な理由で捨てるなんて許せない。 ・ペットを飼うなら責任を持ってほしい。 [命の尊さ] ・どの子もかけがえのないひとつの命なのに。	○「飼わないことも愛情です」に触れていない場合、取り上げて意味を考えさせる。 ○【資料2】について、「それなら仕方がない」「保健所に行くしかない」という意見ばかりが出ないよう、補助発問を通してじっくりと考えさせる。 ○報奨を求めて犬猫の世話をしているわけではないというこずえさんの思いに共感させる。 ○犬猫も人も、すべての生き物には命があることの重みに気づかせたい。
終末 (5分)	○本時の学習を振り返り、出会った価値を深める。	○身近な生き物の命を守るために、あなたが大切にしたいことはどんなことだろう。今日の授業での学びや、その理由を含めて、あなたの考えを書こう。	○感想の交流をさせて互いの思いを聞くことにより、価値への気づきや自覚をさらに深める。

特別の教科道徳 学習指導略案

舞鶴市立青葉中学校
指導者 水上 恒次郎

- 1 対象 第1学年4組 37名
- 2 日時 令和6年9月4日水曜日 第2校時 9:55～10:40
- 3 場所 1年4組教室
- 4 主題名 学習机（内容項目 B-7 礼儀）
- 5 資料名 「中学道徳1」（光村図書より）
- 6 本時のねらい 人と関わる時に大切な礼儀の心について考え、相手を敬い、時と場に応じた行動をとろうとする心情を育てる。

7 本時の展開

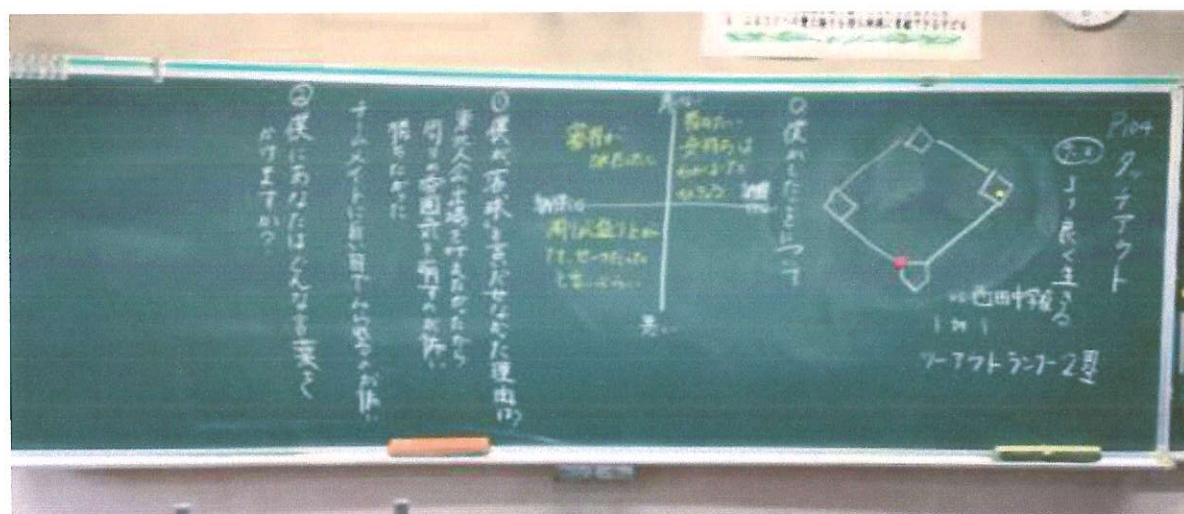
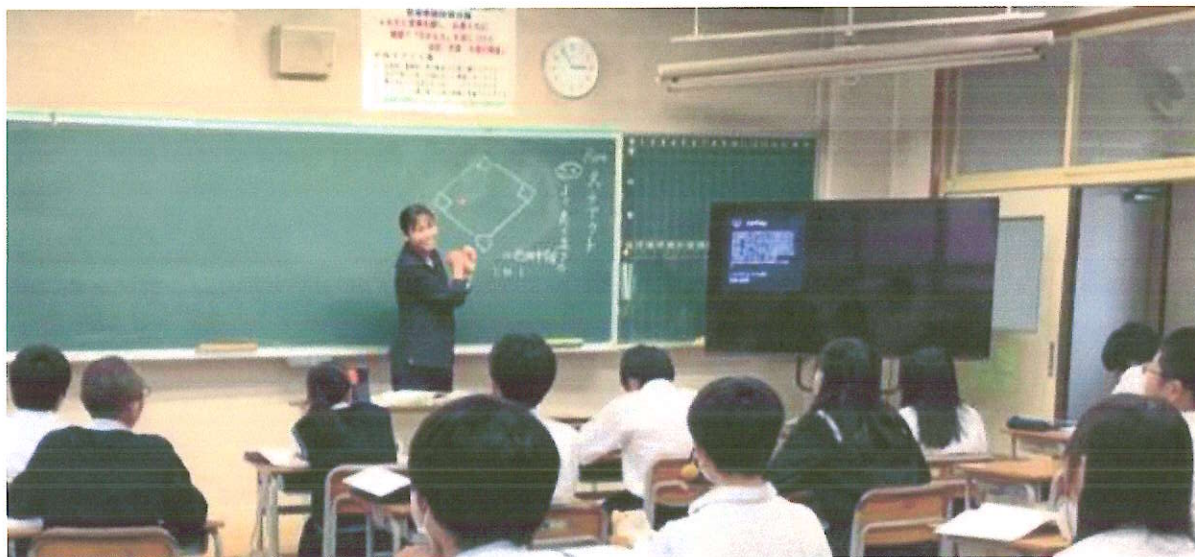
過程	学習活動	主な発問 予想される児童(生徒)の反応	指導上の留意点	資料・ 評価等
導 入	1 礼儀について、今の自分の考えを出し合う。	○「礼儀」とは、どういうものだと思いますか。 ・挨拶をする。 ・敬語を使う。	・日常生活の中で取り立てて考えたことがない生徒もいるかもしれないが、どんなことでもよいので自由に発表させる。	
展 開	2 「学習机」を読み、役割演技を通して考える。	○お客さまは、どうして「私」の電話での対応に怒ったのでしょうか。演じて考えましょう。 〈役割演技〉 「私」：学習机のことですが、すぐに交換しますね。●月●日のお届けになります。 お客さま：なんてことをしてくれたんだ！子供が泣いているんだよ！ 「私」：泣いていると言われまして・・・。 ○家におわびに行ったとき、どうしてお客さまは、すぐに許してくれたのでしょうか。演じて考えましょう。 〈役割演技〉 大枝さん：このたびは、まことに申し訳ございませんでした。なにとおわびをしているのか。 「私」：（大枝さんの後ろでお辞儀をする） お客さま：いいですよ。私はその言葉が聞きたかっただけですから。 「私」：私のミスで、悲しい思いをさせてしまいました。本当に申し訳ありません。	・役割演技を通して、はじめの電話での「私」の対応に欠けていたものに気づかせる。 ・演じるだけでなく、演じて感じたことや、演じているのを見て感じたことを意見交流させる。 ・演じるだけでなく、演じて感じたことや、演じているのを見て感じたことを意見交流させる。礼儀の根底には、相手の気持ちを尊重しようとする思いが必要であることに気づかせる。 ・「心」と「形」が一体となった礼儀正しい振る舞いが、お客さまの態度を軟化させていることを意識させ、礼儀が人と人との関係をよりよくするものであることに気づかせる。	人と関わる時に大切な礼儀の心について考え、相手を敬い、時と場に応じた行動をとろうとする心情を育もうとしているか。
	3 中心発問を考える。	◎礼儀の心とはどういうものだと思いますか。 ・相手に寄り添って話したり、行動したりする。	・導入での考えと、今の自分の考えを比較させ、考えがどう深まったかを自觉させる。	
終 末	4 道徳ノートに記入する	○今日の道徳で感じたことや感想を道徳ノートに記入しましょう。	・ノートに自分の思いを書き、考えを深める。	道徳ノート

道徳科学習指導案

宮津市立宮津中学校
指導者 鶴崎 綾菜

- 1 対 象 第2学年3組 25名
- 2 日 時 令和6年10月28日 月曜日 第6校時 14:40～15:30
- 3 場 所 2年3組教室
- 4 主 題 D-(22)
- 5 ねらい 自分の過失を隠したことについて、良心の呵責を感じ続ける「僕」の思いについて考えることを通し、人間のもつ気高く生きようとする心に気づき、自らの弱さや醜さを克服して、よりよく生きようとする道徳的心情を育む。
- 6 資 料 「タッチアウト」(あかつき)
- 7 本時の展開

過程	学 習 活 動		指導内容	指導上の留意点	準備物
	主な学習活動	形態	主な発問と予想される生徒の反応		
導入 5分	○物語の概要について説明を聞く。	一斉	物語の概要を、イラストを用いて説明する。	主人公が置かれている状況を理解し、勝利に関わる大事な場面に直面していることを理解させる。	
展開 35分	○資料を読み、概要を把握する。	一斉	資料を読む。		教科書 道徳ノート タブレット
	○「僕」の行動について、どう思うのかを考える。	個別 ⇒ 一斉	○「僕」が落球を偽ったことに対して、あなたはどのように思いますか？ ・悪いことだし、納得できない。 ・悪いことだが、納得はできる。 ・悪いことではないし、納得もできる。 ・悪いことではないが、納得できない。	縦軸に「納得できるかどうか」横軸に「善悪」を示した座標のグラフを用いて、自分の考えに矛盾があることに気づかせる。	
	○落球を言い出せなかった「僕」の気持ちについて考える。	個別 ⇒ 一斉	○「僕」が自分の落球を言い出せなかったのはなぜだろう？ ・勝ちたかったから。 ・落球を認めたら負けになるから。 ・チームを県大会に導きたかったから。 ・審判の判断通りで構わないと思ったから。	悪いと思っていたいながらも、落球を言い出せなかった「僕」の心の葛藤に気づかせる。	
終末 10分	○「僕」にかける言葉を考える。	個別 ⇒ グループ	○あなたは「僕」にどのような言葉をかけるだろう？ ・みんなを勝たせるためにした行動だし、気にしないで。 ・よく頑張ったね。 ・「僕」のプレーがなかったら優勝できなかったよ。ありがとう。	新幹線の中での様子から「僕」が、悩み、葛藤していることを捉え、どのような言葉をかけると良いかを考えさせる。	
	○感想を記入する。	個別	○落球を言い出せなかった「僕」に対して、たくさんの人が励ましの言葉をかけたのはなぜだろう？	「僕」が自分の弱さと向き合い、より良く生きていきたいという思いをもっていることに気づかせる。	道徳ノート



生徒の感想

- 「僕」がやったことはだめなことだと思うけど、本人もそれで思いつめているのだから無理に責めたり声をかけすぎたりする必要もないと考えた。結果をごまかしたり、ウソをついたりすると自分が後悔するからこそ誠実に、懸命に生きられれば良いと思う。
- 負けるのはやっぱり嫌だけど、ズルをしてまで勝っても僕はうれしくないです。
- 本当はセーフだけど、審判が「アウト」と言って勝った。ということを知っている人は、本気で喜ぶことは出来ないと思うし、「やってしまった」という罪悪感もあるかもしれないけど、勝ったということには変わらないし、そのミスの分、東北大会で頑張ったらいいと思いました。
- 主人公の気持ちも分かるし、でもダメという気持ちも分かるので難しいです。また、これから県大会があるんだから前向きに頑張ってもらわないと困る。やってしまったからには元には戻れない。
- 自分もこういうことはあるけど、あまり罪悪感が感じられないから、悪いことには変わらないけど、気持ちが罪悪感にのまれてしまっていて、できるだけ次にむけて励ましの言葉をかけたい。

1 対象 第1学年 17名

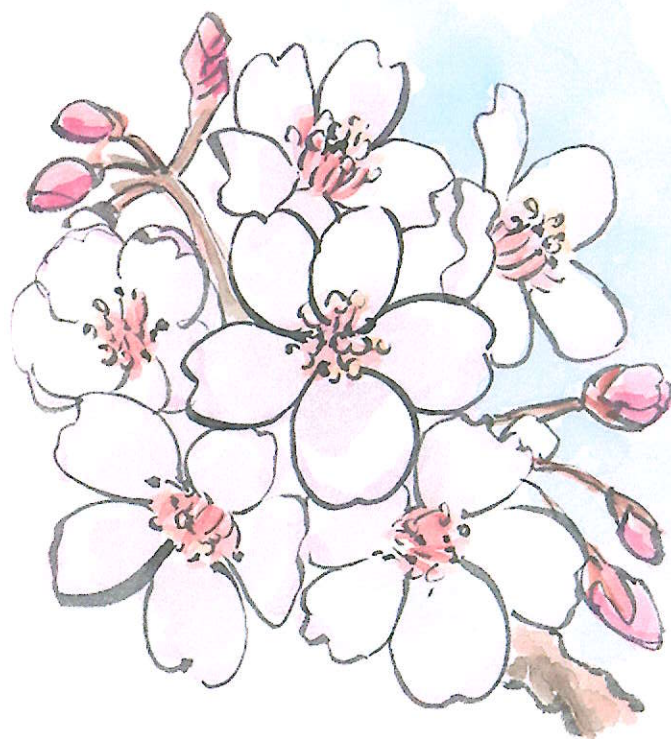
2 単元名（教材名）『人に迷惑をかけなければいいのか？』

3 本時の目標 駐車場のきまりを守らないことで起きる影響について話し合い、「僕」のきまりに対する考えの変化について考えることを通して、法や決まりが自他の生活や権利を守るためにあることに気づき、法やきまりを進んで守り、規律ある社会の実現に努める道徳的判断力を高める。

4 本時の展開（1／1）

指導過程	指導内容	留意点	指導形態
導 入	○人に迷惑をかける行為にはどのようなものがありますか。	・学校での友達に対する迷惑だけでなく、地域・社会においての迷惑も考えさせる。	一斉
展 開	○「通り抜け禁止」というきまりを守らないと、どのようなことが起こるかもしれないだろう。 ・事故が起こる。 →どのような事故が起こるのか。 ・小学生が真似をする。 →真似をしたらどうなるのか。 ・怒られる。 →誰が、どのような理由で怒るのか。	・教材を範読する。 ・きまりが守られないことによる具体的な影響を確認する。 ・切り返し発問で、できるだけ具体的にイメージさせる。	一斉 個人
	○「僕」のしたこと、誰に、どのような迷惑がかかるのだろう。グループで話し合って、できるだけ多く挙げてみよう。 ・駐車場の持ち主のおじさんが、車の持ち主に文句を言われた。 ・駐車していた人の車のタイヤがパンクした。 ・父と担任の先生が謝りに行かねばならなくなった。	・導入で想起したような直接的な迷惑行為とちがいで、一つの規則違反が広く影響を及ぼしていたことに気付かせる。	グループ
	◎「僕」が「今、初めて分かったような気がした」のはどのようなことだろう。 ・きまりは、自分勝手な判断で破ってはいけないということ。 ・みんながきまりを守ることで、自分も、周囲の人も守られているんだということ。 ・自分ではわからないところで人に迷惑をかけてしま	・きまりが多くの人々の生活に関わることで、自分だけの判断で軽視してよいものではないことを、「僕」への自我関与を通して気付かせる。	一斉 個人

	うことがあるから、きまりを守るのは大切だということ。	・各グループを周り、 難しい場合は机間指導 で支援する。	
まとめ	○世の中に法やきまりがなかったらどうなるのだろう。 法やきまりのない社会を想像し、法やきまりは誰のために、 なんのためにあるのか考えながら、今日の学習で感じたこと、 考えたことと一緒に道徳ノートに記入しよう。		一斉



京都府中学校教育研究会 道德研究部会

「令和6年度 研究紀要及び実践事例集」

令和7年3月 発行